



# ノーマライゼーション学校支援事業

～ 障害のある子が抱える学校生活の課題解決に向けて ～

研修会の様子。毎回100名近くの方が参加しています。



NPO

企業

行政

教育

地縁

## ■事業運営団体

NPO法人ちばMDエコネット

## ■協働パートナー

☆千葉県教育庁

☆千葉県

## ■事業の手法

☆共催・事業協力

## ■事業費

☆80万円



## 事業概要

障害のある人もない人も区別されことなく、共に生きる社会づくりを目指す「ノーマライゼーション」。障害のある子どもたちがより良い学校生活を送れるよう、ちばMDエコネットの学校サポーターが、学校生活の中の困りごとについての相談や、学校と本人及び保護者のニーズに基づいた関係者等とのコーディネートを行います。個々のケースについてその対応を検討するとともに、ケース内容をデータベース化し、情報共有しています。また、特別支援教育の理解推進のため、年4回の研修会及びフォーラム(事業報告含む)を開催しています。

## 協働までの経緯

NPO法人ちばMDエコネットは、障害のある子とない子が地域の通常の学級で共に学ぶ教育を求めて、障害のある子の保護者が集まるおしゃべり会などの企画し、実践していましたが、その参加者やHPなどで団体の活動を知った保護者から、個別に相談を受けることが多くなりました。

その都度スタッフが対応していましたが、当初は、行政機関に対応してもらう必要がある相談は、行政機関への要望という形で上げることしかできませんでした。

ちばMDエコネットは、このような個別相談に対して行政機関とともに解決にあたることができる体制を作ることができれば、県全体としての施策的な動きにもつながるのではないかと考えました。そして、平成15年度に「NPOと県の協働提案制度」にすべての障害を対象にした個別相談やセミナーを開催する「ノーマライゼーション相談事業」を提案しました。

提案は採択され、平成16・17年度に実施しましたが、さらなるステップアップのため、今までの相談内容の傾向を調べ、学校生活に関する支援に特化した「ノーマライゼーション学校支援事業」を平成19年度に再提案しました。

折しも学校教育法の一部改正に伴い特別支援教育がスタートした年であり、県教育庁では、学校だけでなく地域や保護者への

支援も必要だと考えていました。

そこで、より多くの理解者を増やし、現場の課題を施策や事業に反映させていくためにこの提案事業を活かしたいと考え、20年度以降継続して実施しているところです。

## 主な事業内容(年間スケジュール等)

- ①学校サポーターによる個別相談及びデータベース管理(通年)
- ②相談ケース検討会議(3ヶ月に1回程度)
  - ・相談ケースから、行政機関との連携やアドバイスが必要と思われる案件について、相談者の状況やアドバイス内容等を共有し、今後の支援について検討を行う。
- ③研修会(年4回)及びフォーラム(年1回)の開催

## 主な協働パートナーとの役割分担

【NPO】学校サポーターによる相談、ケース検討会議の実施、研修会及びフォーラムの企画・運営、広報

【行政】ケース検討会議への参加及びアドバイス、研修会及びフォーラムの企画協力・講師派遣・資料提供、広報、市町村等関係機関への連絡調整・協力依頼等



ケース検討会議の様子

NPOが運営するコミュニティカフェ  
おしゃべり会や相談の場としても活用しています。

### 協働事業によって生まれた成果

- 行政との協働事業であることが、外部に相談することにためらいがちな保護者から信頼を得られています。
- 相談内容について、県担当課と直接連絡が取れ、専門的見地からの意見や情報がもらえるので、相談に迅速に対応できています。
- 悩みを持つ保護者が、学校や教育委員会以外に、まず相談できる場があるという安心感が得られ、また、学校と保護者との間に第三者が間に入ることで冷静な話し合いができます。
- 特別支援教育への取組や障害のある子どもへの支援のあり方について、各地域の情報を収集・提供できる体制が作れました。

♡ コラボのコツ!!

- ★お互いの制度や仕組みを理解し、その変化や状況を共有するとともに役割分担を明確化
- ★事業内容を決めるときは単独で判断しない
- ★手法が社会ニーズに合っているかを常に確認

お互いの状況を理解し、情報を確認し合うことが大切です。忙しくても事業で気になることは必ず相談することで、お互いの信頼関係が築けます。

協定書を毎年締結することで、役割分担が明確になり、事業参加や相談がしやすくなります。

行政機関は担当者の異動があるため、年度末と年度初めに必ず 担当者を集めて打ち合わせを行うことで、事業目的や内容を共有します。お互いに協働する意味を考えることが大切です。



イラスト：山本江美子さん

### 今後力を入れていきたいこと

- 安定した活動にするための資金確保が課題。研修会やフォーラムの会場確保や広報、障害のある参加者への支援等、なるべく経費がかからないよう公共の施設や制度を活用しているが、継続に向けて検討する必要があります。
- 学校への相談付き添いなどの学校サポーターの活動範囲が、人的・資金的にNPOの拠点周辺に偏ってしまう傾向があり、県下全域に同じような活動を届けることができる体制づくりが求められています。

#### 運営団体マネジメント&活動実績

\*NPO法人ちばMDエコネット <http://mdeconet.jp/>

【活動開始年】平成9年(法人化:平成11年10月29日) 【代表者】山田晴子 【住所】〒273-0005 船橋市本町4-31-23 コミュニティカフェひなたぼっこ2F  
【TEL】047-426-8825 【事業担当者】山本佳美 【e-mail】sun@mdeconet.jp 【正(活動)会員数】団体 1/個人 71(平成29年6月現在)

#### ■ 広報ツール

WEB メールマガ 広誌 ブログ FB tw

#### ■ 協働事業の実績

企業 行政 教育 地域 NPO

#### ■ これまでに支援を受けた補助金等

【補助金】①千葉県:人権啓発事業(H25・26・27・28・29) ②船橋市:心身障害者福祉作業所運営費補助金(H23~)  
※そのほか、企業等からの助成金多数  
【委託】①船橋市:馬込町団地広場管理委託(H10~)

#### ■ 表彰歴・マスコミ掲載歴等

- ①千葉県:ちばコラボ大賞(H25)
- ②NPO法人千葉県障害者就労事業振興センター:「はーとふるメッセ・オブ・ザ・イヤー2012」奨励賞
- ③公益社団法人子ども環境学会:子ども環境学会賞「子ども環境活動賞(活動奨励賞)」(H20)
- ④日本計画行政学会:「計画賞(優秀賞)」(H14)

#### ▼ 収入の内訳(平成28年度)

